農薬製剤の数種淡水産動物に対する毒性 LXVIII

誌名	水産増殖
ISSN	03714217
著者名	西内,康浩
発行元	水産増殖談話会
巻/号	27巻3号
掲載ページ	p. 184-184
発行年月	1979年11月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council Secretariat

〔水産増殖27巻3号(1979)〕
THE AQUICULTURE

農薬製剤の数種淡水産動物に対する毒性—LXVIII

西　内　康　浩
(農林水産省農薬検査所)

前報[1]に引き続き農薬2種類を混合した場合のコイに対する毒性を調べたので結果を報告する。

材料および方法

供試動物はコイ *Cyprinus carpio* (6.0 cm, 3.5 g), 供試農薬は有機りん系殺虫剤の EPN: ethyl *p*-nitrophenyl phenylphosphonothionate およびメカルバム: *S*-(*N*-ethoxycarbonyl-*N*-methylcarbamoylmethyl) diethyl phosphorothiolothionate の2薬剤である。なお, 試験方法は前報[1]に準じた。

結果および考察

本試験の結果は第1表に示したとおりである。すなわち, 処理24時間後のコイへの LC_{50} 値は EPN で 0.23 mg/*l*, メカルバムで 0.20 mg/*l* を示し, これら両薬剤の何れの混合割合の場合にもほぼ同程度の毒性 (0.18～0.23 mg/*l*) を示す結果を得た。

要　旨

EPN とメカルバムの混合割合とコイへの毒性を調べた。

文　献

1) 西内康浩　1978: 本誌, 26(4), 114～121.

第1表　EPN とメカルバムの混合割合とコイ *C. carpio* への毒性 (25°C)

農薬名および混合割合[1]			処理濃度[2] (ppm) および 24 hr 後の致死数[3]								LC_{50} mg/*l*[4]
EPN	:	メカルバム	0.56	0.42	0.32	0.23	0.18	0.13	0.10	0.075	
0	:	10	10	9	8	7	3	1	0	0	0.20
1	:	9	9	8	6	5	4	2	0	0	0.23
2	:	8	9	8	7	6	3	1	0	0	0.21
3	:	7	9	8	7	6	5	4	2	0	0.18
4	:	6	10	8	7	6	4	2	1	0	0.20
5	:	5	9	8	6	5	2	0	0	0	0.23
6	:	4	10	9	8	6	1	0	0	0	0.22
7	:	3	10	8	7	5	4	0	0	0	0.23
8	:	2	10	9	8	7	2	1	0	0	0.21
9	:	1	10	10	9	7	4	3	1	0	0.19
10	:	0	9	8	6	5	3	0	0	0	0.23
(30	:	17)[5]	10	8	7	6	4	1	0	0	0.20
対照(農薬無処理区)			0	0	0	0	0	0	0	0	

〔注〕 1) 各々乳剤の 0.1%液を用いた。 2) 混合した農薬そのものを 0.1%とみなした。 3) 供試魚5匹/10*l*×2連区制の致死個体数。 4)混合した農薬 mg/*l* で示した。 5)製品「ペスコンビ乳剤」の混合割合に準じて調製したもの。